

将来構想



一般社団法人 日本キャリア・カウンセリング学会
Japanese Association of Career Counseling

目的

ありたい姿

中長期ビジョン

[具体策]

- * 2022年度に実現したい
- * 3年以内に実現したい
- * 継続検討課題としたい

1 目的

本学会は、キャリア・カウンセリングを「人間尊重を基本理念として、働く人が心身ともに健康で、それぞれの個性と役割が十分に発揮されるよう支援するカウンセリング活動の総称である。学術研究と現場実践に基づき、個人・集団はもとより組織に対して提供され、それらの成長・発達と共生関係の実現、ひいては幸福かつ持続可能な社会の創造に寄与する専門的過程である。」と定義し、キャリア・カウンセリングの研究、調査及び自らの資質向上のための各種事業を行うことを目的とする。

定款：第2条

2 ありたい姿

キャリア・カウンセリングに関する研究者、実践者等の自由な交流と対話の場を保障する
キャリア・カウンセリングに関する研究者、実践者等の学習と成長の機会を創造する
キャリア・カウンセリングに関する研究と実践活動等の成果を社会へ発信する
これらの活動を通じて幸福かつ持続可能な社会づくりに貢献する

ありたい姿の説明

私たちは、キャリアをワークやライフも含む広い概念として捉え、キャリア・カウンセリングをキャリア形成支援やメンタルヘルスケアも含むものと捉えています。

支援領域は、産業領域はもちろんのこと、教育領域、福祉領域、医療領域、司法領域等も含みます。

支援対象は、企業人に限らず、アンペイドワーク（家事、育児、介護等）の従事者、ボランティア、学生、シニア等の個人、および、グループ、チーム、コミュニティ等の組織も含みます。

関係団体、地域、国家等の枠を超えて、自由闊達でフラットに交流と対話することを相互に保障します。

そして、科学者実践者モデルに基づき、学術研究と実践活動を通じてキャリア・カウンセリングに関する科学的見識と効果的な技能学びを深め合い、常に成長し続けることを目指します。

また、研究と実践活動の成果やそれにもとづく各種提言を積極的に社会へ発信します。

これらの活動を通じて、幸福かつ持続可能な社会づくりに貢献する団体でありたいと考えます。

中長期ビジョン



I. 国・地域・年代・専門分野を超えた交流プラットフォームの実現



II. より高度な研究者・実務者育成のためのキャリア・カウンセリング研究と実践の進化



III. スーパービジョン、事例検討会を通じた実践力高度化の追求



IV. 時代が求めるキャリア・カウンセリングの研究知見の集積とその発信による社会貢献



V. DX への取り組みと持続可能な組織運営基盤の構築

2022年度に実現したい具体策

1. 会員情報の共有による交流の活発化

（1）学会内の人的資源の共有と有効活用

（2）HP コンテンツの拡充（各委員会との連携）

- ・役員紹介／写真掲載、SV 相談窓口の掲載、過去の資料コーナー（大会、表彰等）
- ・会員限定ページの利便性向上

2. 自主的な研究会等の実施による交流の活発化

（1）交流会の開催

- ・2～3 か月に1 回程度、テーマ・ファシリテーターを設定して実施（他委員会との連携）

（2）課題共有型交流イベントの開催

継続検討課題としたい具体策

1. 会報の内製化（年間 20 ～ 30 万円のコスト削減）

2. 広報委員会の位置づけの再検討

- ・広報委員会が「会員窓口」となり問い合わせに対応する等、事務局機能の一部を兼ねる体制の検討
- ・ブランディング委員会と統合または合同開催とし、新会員獲得の企画と実行の迅速化の検討

3. 広報委員会のプロフィットセンター化

- ・交流会を活用しての収益化（ワンコイン程度の参加費）

4. IT の活用による研究会やテーブル活動的な会員が能動的に活動できる場の整備

5. IT 技術を利用したリモート勉強会の検討

3年以内くらいに実現したい具体策

1. 会員情報の共有による交流の活発化

（1）役員／会員のコラムコーナー（HP で一般公開）の設置

- ・HP を活用し役員や会員投稿のコラムページの作成（会報機能を一部 HP に移行）

（2）会員紹介コーナー（会員限定）の設置

- ・各分野で活躍する会員紹介（自薦・他薦）ページの作成

（3）会員情報のデータベース化

- ①会員のスキル情報の共有化（IT 推進と連携）
- ②①を外部に発信して「人材バンク」として活用
- ③①をビジネス及び研究のコラボ相手を探すために活用（閲覧は会員限定）



2022年度に実現したい具体策

1. 国際的交流の活発化

- (1) 「国際」というものを考えてもらうきっかけ・話題づくり
 - ①「Today」の執筆・投稿 ②大会シンポジウムへの参加
- (2) 国際交流の枠組みについての検討
 - ①国際交流の図り方の検討 ②海外からの招聘の際に必要なロジスティックスの確認

2. 地域内・地域間交流の活発化

- (1) 大会のオンライン交流会において地域別交流会の開催
(参加者の地域活動へのニーズの把握)
- (2) 研修委員会・事例検討会普及委員会等と連携して地域における活動の拡充
- (3) 上記活動の実施後、当学会の地域活性化について検討
(今後の進め方・課題の共有等)

3年以内くらいに実現したい具体策

1. 国際的交流の活発化

- (1) 「国際」というものを考えてもらうきっかけ・話題づくり
 - ①「Today」の執筆・投稿 ②大会シンポジウムへの参加
- (2) 国際交流の枠組みについての検討
 - ①国際交流の図り方の検討 ②国際招聘実現に向けたニーズアセスメントの実施

2. 地域内・地域間交流の活発化

- (1) 全国の ACCN の地域支部とコラボレーションした研修会・交流会等を
各地域で一度開催
(九州・沖縄、中国・四国、中部、関西、関東、東北・北海道)
- (2) 地域別、臨床心理の分野の会員とキャリアコンサルタント分野の会員等が、
学会をベースに交流できるプラットフォーム作り
(他職種の連携の足がかりとする)

3. キャリア関連学会（日本キャリア教育学会、日本キャリアデザイン学会等）との連携強化

- (1) 地方在住の方でも研修を受けられるインフラづくりを関連団体と協力しながら企画
- (2) 関連学会と連携して、シンポジウム・研修会の共同開催

継続検討課題としたい具体策

1. 国際的交流の活発化

- (1) 当学会としてどのような国際交流をするのかを検討
- (2) これまでの活動を多角的に振り返り、その時点で必要とされることを真摯に取り組む

2. 地域内・地域間交流の活発化

上記の(1)(2)の可能性や方法、進め方の検討

3. キャリア関連学会、および、他領域の学会との連携の強化

- (1) キャリア関連学会と連携してオンデマンド研修の企画・実施
- (2) その他の学会、資格団体、厚生労働省との連携強化
 - ①他の関連学会、団体との合同研修会、勉強会等の実施の検討
 - ②医療、心理等、他領域の学会と共同企画の研修会の開催の検討



2022年度に実現したい具体策

1. より高度な研究者の育成支援

- ①研究相談サロンの継続（今期3回実施予定）
- ②年次大会における修士論文・博士論文発表セッション（大会にて行う）

2. より高度な実践者の育成支援

（1）セミナー、研修会等のさらなる充実による実践者の育成支援

- ①オンデマンド型研修会の開始（IT推進と連携し、動画編集チームの編成）
- ②メンタルヘルス領域の研修会の拡充
- ③対面型研修会の再開（コロナ禍の影響を見据えて）

3年以内くらいに実現したい具体策

1. より高度な研究者の育成支援

- ①研究相談サロンの拡大
（相談内容・相談レベルに応じた相談員の割り振り、相談員に修士も）
- ②研究者による研究活動支援（大会発表に向けた指導・支援、連名発表等）の拡充
- ③研究者と実践家を繋ぐ活動の実施
（掲載論文著者に実践的活用を解説・質疑応答する場に参加してもらう）
- ④初学者（学生・実践者）への研究奨励金・助成金（20万円）の検討

2. より高度な実践者の育成支援

（1）セミナー、研修会等のさらなる充実による実践者の育成支援

- ①関東圏以外での対面型研修の拡充
- ②非会員の入会促進につながるような低価格の研修会、イベントの開催の検討

継続検討課題としたい具体策

1. より高度な研究者の育成支援

- ①研究者養成の講座・研究会・研修会等の実施（学会認定の資格制度として）

2. より高度な実践者の育成支援

（1）セミナー、研修会等のさらなる充実による実践者の育成支援

- ①キャリアコンサルタント以外の会員（医療系、福祉系など）を増加するためのイベント等の実施
- ②年間を通じて提供する研修会の体系化の検討



2022年度に実現したい具体策

1. スーパービジョンの充実による実践者の育成支援

- (1) SV 委員会企画シンポジウムの開催（第 27 回大会のプログラム）
 - ・学会の SV 養成講座の基盤であるスーパービジョン・モデルの理解と SV 養成講座の普及
- (2) スーパービジョン研修の実施（研修委員会・事例検討普及委員会との連携）
 - ・スーパービジョンの理論と方法（スーパービジョン概論）の解説後、スーパービジョンと「事例検討」の違いを同一事例を用いて実施
- (3) スーパーバイザーおよびスーパービジョンメンターの資質向上
 - ・認定スーパーバイザーのための「研修会＆交流会」の開催および「メンター学習会」の定期的開催

2. 事例検討会のさらなる充実による実践者の支援

※終了後の全体検討（今後の進め方・課題の共有等）

- (1) オンラインによる事例検討の定期開催（7/30、8/20、9/4、10/2）
- (2) 「ファシリテータートレーニングプログラム（仮称）」の開設
 - ・7/30・9/4 参加者への案内
 - ・各役割（ファシリテーター、記録、メンバー、事例提供者）を体験する機会の提供（5 名程度）

3 年以内くらいに実現したい具体策

1. スーパービジョンの充実による実践者の育成支援

- (1) スーパービジョンメンター（SV メンター）の養成プログラムの策定
 - ①メンター会議により推薦された SV が「メンター訓練生候補」として SV 養成講座（講義編・実習編）に参加
 - ②「メンター訓練生」としての認定後に、SV メンタリングを担当し、主 SV メンターから指導・評価を受ける
 - ③上記①②の課程の体系化・カリキュラム化

2. 事例検討会のさらなる充実による実践者の支援

- ①ファシリテータートレーニングプログラムの開催
- ②トレーニングの進め方・方法についての検討
- ③事例検討会を定期的に（オンラインや対面で）開催できる方法・体制等の検討

継続検討課題としたい具体策

1. スーパービジョンの充実による実践者の育成支援

- (1) 本学会スーパービジョン・モデルに基づくグループ・スーパービジョン開催の可能性とその方法の検討
- (2) 中堅・若手のスーパーバイザーの養成の検討
- (3) 本学会のスーパービジョン・モデルとその実践についての出版企画の検討
 - ・「キャリア・カウンセリングのスーパービジョンと事例検討」（例）
 - ・「キャリアコンサルタントのためのスーパービジョン入門」（例）

【参考】杉原保史 2016「キャリアコンサルタントのためのカウンセリング入門」北大路書房

2. 事例検討会のさらなる充実による実践者の育成支援

- (1) 事例検討会の可能性や方法、進め方の検討



2022年度に実現したい具体策

1. 学会誌の拡充による研究者の発表機会の強化による社会貢献

(1) 「キャリア・カウンセリング研究」のさらなる充実

- ①「キャリア・カウンセリング研究」の企画、編集、発行
- ②投稿論文の査読運営
- ③投稿・査読システム導入に向けた調査・検討
- ④「キャリア・カウンセリング研究」誌の過去掲載論文のオープンアクセス化
- ⑤年次大会における修士論文・博士論文セッションの設定

(2) 「TODAY」のさらなる充実

- ①「TODAY」における事例研究の推奨
- ②学会活動に関する読み物の掲載

3年以内くらいに実現したい具体策

1. 学会誌の拡充による研究者の発表機会の強化による社会貢献

(1) 「キャリア・カウンセリング研究」のさらなる充実

- ①小規模な論文改善ワークショップの開催
- ②初学者（学生・実践者など）への研究奨励金・助成金制度の導入
- ③投稿・査読システムの導入

(2) 「TODAY」のさらなる充実

- ①各種研修会、研究会の講演録等の掲載

継続検討課題としたい具体策

1. 学会誌の拡充による研究者の発表機会の強化による社会貢献

(1) 「キャリア・カウンセリング研究」のさらなる充実

- ①学会誌の特集号の編集

(2) 事例集『キャリア・カウンセリング実践』（仮称）の発行



2022年度に実現したい具体策

1. 学会運営業務の効率化

- (1) 「業務効率化プロジェクト」(ブランディング委員会・総務委員会合同)の立ち上げ
- (2) アウトソーシング業務の見直し(費用の現状把握)
 - ・外部業者に委託している業務の洗い出し、事務局で実施している業務についての整理
 - ・業務遂行スキルの明確化
- (3) 上記を踏まえ、業務の見直しとアウトソーシング先の代替案の検討
- (4) 学会事務所費用の見直しのための調査・検討
- (5) 組織運営のIT化推進によるコストの見直し
 - ※IT 推進は他委員会への支援・連携強化

2. 学会としての財務面の方向性の明確化

(会費で基本的学会活動が賄える・収益水準の明確化)

- (1) コスト構造を見直した上で年会費、大会参加費等の見直しを図る。

3. 新規入会者増に向けた取り組み SNS 等での広報活動を通して学会の周知(ブランディング・IT 推進と連携)

- (1) 年度途中入会の促進：入会時期に応じた価格の設定
- (2) 入会申し込みから入会までの期間の短縮化、および、入会・退会の丁寧なフォローの実施
- (3) 若手会員の獲得策の立案・実施、高齢会員のつなぎとめ策の企画実施

4. 委員会体制の拡充

- (1) IT 推進委員会の人員体制の拡充と育成・技術継承
- (2) 広報委員会の体制整備・役割分担、マニュアル作成(2023 年度新体制へのスムーズな移行)

3年以内くらいに実現したい具体策

1. 学会運営業務の効率化

- (1) 業務フローの見直しの実施アウトソーシング業務の見直しと改善
- (2) よりよい運営のための学会事務所体制の構築

2. 学会としての財務面の方向性の明確化

(会費で基本的学会活動が賄える・収益水準の明確化)

- (1) 組織運営のIT化推進によるコストの見直しの実施・IT を活用した学会サービス・業務支援の検討

3. 継続的な会員獲得策の企画・実施

- (1) 年度途中入会の促進：入会時期に応じた価格の設定
- (2) 入会申し込みから入会までの期間の短縮化、および、入会・退会の丁寧なフォローの実施
- (3) 若手会員の獲得策の立案・実施、高齢会員のつなぎとめ策の企画実施

4. 委員会体制の拡充

- (1) 広報委員会の人員体制の拡充と整備
 - ・広報委員会単独で10名程度の体制にし、積極的な広報ができる体制を目指す
 - ・新規入会者に積極的に声をかける等、リクルート方法や仕組み等の検討

継続検討課題としたい具体策

1. 業務水準の質の確保(遂行スキルの明確化と業務の標準化)

2. 学会員の入退会についての動向に関する情報提供

3. 会員増加のためのプロモーションの強化

4. 会費徴収の口座振替の検討の継続

